

令和2年度
岩手県国際リニアコライダー推進協議会
事業報告書

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

- (1) 国内・外の状況と活動概況
- (2) 国等への要望活動の強化
- (3) 国内・外への ILC 実現にむけた活動
 - ア. 国内 PR の強化
 - イ. 海外への情報発信強化
 - ウ. 普及啓発活動
 - エ. 岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援
 - オ. 各種刊行物等への寄稿等
- (4) 調査・研究事業
 - ア. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出
 - イ. 東北 ILC 事業推進センターの活動
- (5) 広報活動
- (6) 組織強化活動
 - ア. 会員増強
 - イ. 産・学・官・関係機関との連携
- (7) 諸会議等
- (8) 会員加入状況

(1) 国内・外の状況と活動概況

国際リニアコライダー計画は、平成 31 年 3 月、日本政府から初めて公に ILC 計画に関心を持って国際的な意見交換を継続すると見解を表明して以降、国内・外で着実に進展している。

令和 2 年 2 月の国際将来加速器委員会 (ICFA) において文部科学省と河村超党派国会議員連盟会長から見解表明以降の取組みや考え方を説明した。ICFA は、ILC の日本建設への支持を表明し、準備段階への移行を促進するための組織の設立を提言し、8 月には「国際推進チーム (IDT)」が発足され、国際的な ILC 推進体制が確立された。IDT は 1-1.5 年かけて ILC 準備研究所への移行を目指している。

また、6 月には文部科学省が注目していた「欧州素粒子物理戦略」において、「電子陽電子ヒッグス・ファクトリーが最も優先度が高い加速器。ILC がタイムリーに実現する場合は欧州戦略に適合し、欧州の素粒子物理学コミュニティは協働することを望む。」との意向が示され、既に LCWS2019 仙台などで日本の ILC 建設の支持を表明していた米国に続き、欧州の協力姿勢も明確になった。

ILC を巡る海外の動向が進展したことにより、候補地である東北の受入れ態勢環境整備等の具体的な検討が重要となったことから、これまでの東北 ILC 準備室を発展解消して、新たに「東北 ILC 事業推進センター (鈴木厚人代表)」を設置し、地形・地質調査など具体的な受入れ態勢整備にむけた活動を開始している。

また、10 月には日本の高エネルギー物理学研究者会議の下に、新たに研究者コミュニティによる「ILC Steering Panel (ILC 推進パネル)」が設置され、国内・外の研究者に ILC 実現を訴える組織体制の強化を図った。

一方、国内では 9 月に復興庁設置法一部改正の国会審議において、衆・参両議院で「新しい東北に資する国際リニアコライダー計画として関係機関と検討するよう」付帯決議がなされ、7 月に公表された骨太の方針にも ILC 計画を示唆する文言が一昨年に引き続き盛り込まれるなど、東北の ILC 実現に向けたフェーズが大きく変わってきている。

このような中、当推進協議会の令和 2 年度事業は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を踏まえ、3 月開催を延期した講演会を 9 月にオンラインで開催し、ILC の意義や最新の状況、ILC を契機とした地方創生をテーマに全国から 600 名を超える参加をいただいた。さらに国際推進チーム等の活動状況を視野にオンラインによる講演会開催の準備を進めた。

また、研究者、KEK など国内の推進団体と国内外の情報収集に取り組むとともに ILC プロジェクト動画の普及や各種 PR グッズ等を製作した。さらに、岩手県 ILC 推進局と連携し、「東北 ILC 事業推進センター」の設立と運営に関わり、受け入れ態勢の整備・準備活動に積極的に取組んだ。

(2) 国等への要望活動の強化

①「欧州素粒子物理戦略」公表による谷村会長ステートメント

6月19日（金）に開催された CERN 理事会において「欧州素粒子物理戦略」が公表されたことに伴い、谷村会長によるステートメントを発表した。

『欧州素粒子物理戦略において、ILC が最優先の研究計画と認められたことは誘致実現に向けて大きく前進したと考える。

ILC は国際プロジェクトであり、米国に続き欧州からの強い支持が得られたことによって、国際的な議論がさらに進展するものと期待する。

日本の未来を担う若者・子供たちに夢と希望を与え、「世界とつながる新たな地方創生」の起爆剤となる ILC の誘致実現を目指し、引き続き、受入態勢の準備に全力を尽くしてまいりたい。』

②田中和徳復興大臣との意見交換

令和2年6月22日（月）/盛岡商工会議所 役員室

出席：谷村会長、橋本専務理事、廣田理事、猿川事務局長

- ・ ILC 日本実現に関する要望書を提出。「新しい東北」に資する ILC 計画として復興庁の支援を要望した。田中復興大臣からは、「ILC 計画は良く知っている。文部科学省の検討を注視している。」とコメントがあった。

③鈴木俊一自民党総務会長との意見交換

令和2年6月26日（金）/ホテルメトロポリタン盛岡 New Wing

出席：谷村会長、鈴木学長、高橋岩手県 ILC 推進局長、大平理事、猿川事務局長

- ・ ILC 国会議員連盟の活動、欧州素粒子物理戦略の公表、東北 ILC 準備室の後継組織についての情報を共有した。

④山下 了東京大学特任教授との意見交換

令和2年7月6日（月）/盛岡商工会議所特別会議室

出席：谷村会長

- ・ 欧州素粒子物理戦略の公表、東北 ILC 準備室の後継組織についての情報を共有した。

⑤ノーベル物理学賞 小柴昌俊先生ご逝去に伴う谷村会長コメント

ILC の実現にご尽力されたノーベル物理学賞 小柴昌俊先生（先端加速器科学技術推進協議会名誉会長）のご逝去に伴い、谷村会長からコメントを発表した。

『ニュートリノの研究で輝かしいご功績を残され、次世代加速器 ILC の実現にご尽力された小柴先生ご逝去の報に接し、誠に残念でなりません。

わざわざ首相官邸に安倍総理をお訪ねになり、ILC の実現のために要望して下さったことが思い出されます。

「これからの物理 リニアコライダーとニュートリノ」と提唱された小柴先生のご遺志を引き継ぎ、ILC 実現に邁進したいと存じます。』

⑥日本商工会議所、(一社)日本経済団体連合会、(公社)経済同友会との連携

- ・経済3団体は平成31年2月20日「国際リニアコライダー誘致に関する意思表示への期待」と題し、共同声明を発表した。経済3団体とは、ILCの最新動向についての情報を共有している。
- ・日本商工会議所は、令和3年3月10日「東日本大震災 復興要望 ～これまでの10年間の総括と今後10年の復興の強力な推進を」について平沢復興大臣に要望書を手交した。国際リニアコライダーの誘致実現とそれに向けた ILC 準備研究所の高エネルギー加速器研究機構内への設立促進を要望した。
- ・日本商工会議所三村会頭は、3月11日、東日本大震災から10年を迎え、引き続き未曾有の災禍への克服と「国際リニアコライダー」など東北の新たな地域振興につながる大規模プロジェクトが東北の復興の象徴となることに期待すると談話を発表した。

(3) 国内・外への ILC 実現に向けた活動

ア. 国内 PR の強化

①ILC 推進連絡会による活動：ILC 推進団体の連携

ILC 推進連絡会は、ILC の連携推進体制の強化のため、研究者、高エネルギー加速器研究機構 (KEK)、先端加速器科学技術推進協議会 (AAA)、岩手県 ILC 推進局、東北 ILC 推進協議会、東北 ILC 事業推進センター、岩手県 ILC 推進協議会で組織され、国内外の推進状況の情報共有と ILC 超党派国会議員連盟の活動や要望活動、オールジャパン体制での広報活動などを行う。

推進連絡会は月2回開催(第21回～第46回): 於 リモート会議

広報活動の強化のため、ILC プロジェクト動画の拡散や欧州素粒子物理戦略公表への対応、KEK メディアサロンの対応、ILC 国際推進チーム IDT・東北 ILC 事業推進センターの設立に伴う広報活動などに取り組んだ。

○ILC プロジェクト動画の PR

令和2年1月31日から AAA の HP と KEK チャンネル YouTube で公開した ILC プロジェクト動画の視聴状況を ILC 推進連絡会で共有し、各推進団体と PR に努めた。

タイトル 「日本が変わる 世界を変える 国際リニアコライダー (ILC)」

～世界をリードする科学と社会の国際モデルを目指して～

フルバージョン (25 分) ショートバージョン (5 分)

視聴回数 フルバージョン 4,345 回 ショートバージョン 3,973 回

合計 8,318 回 (令和3年3月31日現在)

イ. 海外への情報発信強化

①ILC 英語版広報誌「THE KITAKAMI TIMES」の発刊(当協議会 HP 内)

海外の研究者等へ ILC の候補地である北上サイトや岩手県内の観光やイベント情報、ILC 実現に向けた地域の取組等を英語版の広報紙としてウェブ上に掲載し、北上サイトに対する理解や機運醸成につなげている。

令和2年4月1日～令和3年3月31日 93 刊～117 刊 (25 刊) 発刊。

ウ. 普及啓発活動①. 公開講演会等

① ILC 公開講演会（オンライン開催）（参加者：端末 427 台 633 名）

日時 令和 2 年 9 月 24 日（木）12：30～14：30

会場 ホテルメトロポリタン盛岡 New Wing メトロポリタンホール
先端加速器科学技術推進協議会（三菱重工(株)会議室）

内容 第 1 部講演

「ILC 実現に向けた日本の研究者の取組み」

講師：高エネルギー物理学研究者会議

高エネルギー委員長

東京大学 教授 森 俊則 氏

「ILC 計画の最新状況について」

講師 東京大学 特任教授 山下 了 氏

第 2 部講演

「新しい地方創生の核となる ILC 計画」

講師：株式会社東急総合研究所（元国土交通省政策局長）

顧問 藤井 健 氏

・ 21 都道府県、海外からも参加があった。一関市、陸前高田市他でスクリーン会場を設置して多数の参加があり、参加者数は 633 名。

講演会への質問とよくある質問を Q&A 方式にして、当協議会 HP で公開した。

また、当日の講演内容は、12 月 9 日から当協議会 HP から YouTube で無料公開した。

森講師（179 回） 山下講師（141 回） 藤井講師（118 回）（令和 3 年 3 月 31 日現在）

ウ. 普及啓発活動②. 学生向け講演会

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催なし。

ウ. 普及啓発活動③. その他（後援・協力等）

①「東北 ILC 推進協議会 ILC 講演会」（後援）（参加者 約 200 名）

令和 2 年 10 月 8 日（木）13:50～15:00 於：オンライン開催

主催：東北 ILC 推進協議会

共催：（一社）先端加速器科学技術推進協議会、東北 ILC 事業推進センター、岩手県国際リニアコライダー推進協議会

内容：・東北 ILC 事業推進センターの活動について

鈴木 厚人 氏（東北 ILC 事業推進センター 代表）

・ ILC 最新動向～ILC 国際推進チームの設置と今後の取組み～

山内 正則 氏（高エネルギー加速器研究機構 機構長）

・ ILC の科学的な意義を考える

村山 斉 氏（ILC 国際推進チームワーキンググループ 3（測定器及び物理）リーダー）

②「サイエンスアゴラ 2020」（周知協力）

主催：科学技術振興機構（JST）

令和 2 年 11 月 15 日（日）～22 日（日） 於：オンライン開催

・ ILC に関するクイズ動画出展（岩手県 ILC 推進局）

・ミニシンポジウム

令和2年11月22日（日）10:00～11:30

内容 「素粒子物理×加速器×LIFE＝？」

講演 ILC 国際推進チーム、米国カリフォルニア大学バークレー校 村山 斉 教授

高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所 多田 将 准教授

ファシリテーター：東京大学大学院総合文化研究科在籍 須貝 駿貴 氏 (QuizKnock)

③いわてまるごと科学館オンライン

令和2年12月1日（火）～令和3年2月28日（日） 於：オンライン開催

実行委員会が開設したホームページにてオンライン開催された。当協議会からは ILC クライオモジュールのペーパークラフト用データや ILC 関連動画の URL を提供し、ILC の普及啓発を行った。

④「グリーン ILC セミナー」(岩手大学第 17 回加速器科学連続セミナー) (後援)

令和2年12月17日（木）14:00～16:30 於：岩手大学復興記念銀河ホール/オンライン開催

主催：岩手県/岩手大学

内容：・ ILC の動向とグリーン ILC の取組み

吉岡 正和 氏（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）

- ・ 日本発の高層耐火純木造 11 階建てビルについて

堀池 隆弥 氏（㈱大林組 本社プロジェクト設計第二部 副部長）

- ・ 大型木造建築と地域の経済波及効果

安達 広幸 氏（㈱シェルター 常務取締役）

- ・ 岩手大学との共同研究について

寺澤 弘陽 氏（アジア航測㈱東北インフラ技術部地域創生二課）

⑤「グリーン ILC セミナー」(岩手大学第 18 回加速器科学連続セミナー) (後援)

令和3年3月17日（水）13:00～21日（日）17:00 オンライン配信

主催：岩手県/岩手大学

内容：・ ILC の動向とグリーン ILC の取組み

吉岡 正和 氏（高エネルギー加速器研究機構 名誉教授）

- ・ I o T 技術と地域資源融合型スマートファーム～地熱利用バジル栽培～

兒玉 則浩 氏（㈱八幡平スマートファーム 代表取締役 CEO）

- ・ 岩手県の気候について

松岡 稔 氏（盛岡地方気象台 次長）

- ・ 吸着剤ハスクレイによる熱のオフライン輸送

佐々木 明日香 氏（東日本機電開発㈱ 企画開発部門）

- ・ それは、しみんとつながるエネルギー～陸前高田しみんエネルギーの取組について

菅野 隼 氏（陸前高田市 政策推進室 政策広報係長）

⑥「東北 ILC 推進協議会 ILC 講演会」(共催) (参加者 約 230 名)

令和3年3月23日（火）16:00～17:10 於：オンライン開催

主催：東北 ILC 推進協議会

共催：(一社) 先端加速器科学技術推進協議会、東北 ILC 事業推進センター、岩手県国際リニアコ

ライダー推進協議会

内容：・ ILC 国際推進チームの取り組み状況

中田 達也 氏（ILC 国際推進チーム 議長兼ワーキンググループ 1 部会長）

・ ILC 加速器・施設の検討状況

道園 真一郎 氏（ILC 国際推進チーム ワーキンググループ 2 部会長）

・ ILC の科学的な意義と測定器の準備状況

村山 齊 氏（ILC 国際推進チーム ワーキンググループ 3 部会長）

エ. 岩手県 ILC 連携室オープンラボ活用支援

・ 平成 30 年 4 月、ILC の中核部品であるクライモジュールの実機の展示や ILC の関連情報を集約して、ILC への参入を目指すものづくり事業者や興味を持つ児童、先生など誰もが学習・研究できる拠点として岩手県先端技術研究センター内に開設。

令和 2 年度は、ILC 衝突地点の 3D 模型、A4 版 ILC リーフレットをポスターサイズのパネルにして制作するなど展示品の強化を図り、一層の理解促進に 努めている。

見学者 9 団体 199 名 （令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）



オ. 各種刊行物等への寄稿等

・「岩手経済研究」2 月号 シリーズ ILC への期待と課題 第 27 回

（４）調査・研究事業

ア. ILC に関連する加速器関連産業への理解と参入機会の創出

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会他と連携したセミナー

①第 1 回 ILC 技術セミナー（後援）

令和 2 年 7 月 16 日（木）13:30～／於：オンライン開催（いわて産業支援センター）

主催：いわて加速器関連産業研究会・東北 ILC 準備室

内容：・ ILC の最新動向について

大平 尚 氏（岩手県理事）

・ ILC の設計状況

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 特別教授）

・「ILC 衝突点実験ホール of 工事に向けて ～地下空洞工事の基礎と実際～」

大山 寛夫 氏（鹿島建設㈱土木管理本部 プロジェクト推進部）

②第2回 ILC 技術セミナー（後援）

令和2年9月23日（水）13:30～／於：オンライン開催（岩手大学）

主催：いわて加速器関連産業研究会・岩手大学

内容：・東北 ILC 事業推進センターの設立と今後の活動について

大平 尚 氏（岩手県理事）

・ CERN 及び EU における Knowledge Transfer と ILC の現状

山本 明 氏（高エネルギー加速器研究機構（CERN 駐在）名誉教授
岩手大学 客員教授）

・放射光挿入光源の最新技術と状況

北村 英男 氏（NEOMAX エンジニアリング・日立金属グループ技術顧問
高エネルギー加速器研究機構（CERN 駐在）名誉教授）

③第3回 ILC 技術セミナー（後援）

令和2年11月26日（木）13:45～／於：オンライン開催

主催：いわて加速器関連産業研究会・岩手大学

内容：・ ILC 加速器設計の現状

早野 仁司 氏（高エネルギー加速器研究機構 特別教授）

・医学・医療分野における加速器利用の動向について

有賀 久哲 氏（岩手医科大学 放射線腫瘍学科 教授）

・ IDT-WG 発足と ILC が期待する企業像

道園 真一郎氏（高エネルギー加速器研究機構 応用超伝導加速器センター長
ILC 国際推進チーム WG2 チェアマン）

④第4回 ILC 技術セミナー（後援）

令和3年2月4日（木）13:30～／於：オンライン開催

主催：いわて加速器関連産業研究会・岩手大学

内容：・超伝導 RF 電子銃の開発

許斐 太郎 氏（高エネルギー加速器研究機構 応用超伝導加速器センター 助教授）

・超伝導加速器空洞製造と高圧ガス許認可

佐伯 学行 氏（高エネルギー加速器研究機構 応用超伝導加速器センター 准教授）

・加速器参入事例紹介

近藤 正彦 氏（株式会社近藤設備 代表取締役社長）

イ. 東北 ILC 事業推進センターの活動

東北 ILC 事業推進センターは、ILC 国際推進チームはじめ研究者コミュニティと密接な連携の下、建設候補地周辺の関係機関が協働して建設に必要な条件整備等について、地域が主導して検討を進めることを目的としている。

構成団体：岩手県、宮城県、仙台市、盛岡市ほか候補地周辺自治体、東北大、岩手大、岩手県立大、岩手県 ILC 推進協議会 22 団体

連携機関：AAA、東北 ILC 推進協議会 協力機関：KEK

代表：鈴木厚人岩手県立大学長

会議等

設立準備会

令和2年7月9日（木）13：30～／仙台市セントレ東北

- ・組織体制について、規約、令和2年度事業計画、収支予算について

設立総会及び第1回総会

令和2年8月6日（木）13：30～／ホテルサンルート一関

- (1) 規約について
- (2) 役員の選任について
- (3) 事業計画について
- (4) 収支予算について
- (5) 幹事の選任について
- (6) 部会の設置について

講話 「ILC を取巻く状況について」

講師 岩手県立大学 鈴木 厚人 学長

第1回幹事会

令和2年9月7日（月）13：30～／一関文化センター

情報提供 ILC の最新動向について

協議

- (1) 令和2年度の事業内容について
- (2) 令和2年度の部会の設置について
- (3) 負担金のあり方について
- (4) 東北 ILC 施設計画について

事例発表

「連携機関 AAA の地方創生・まちづくり WG の活動について」

株NTTファシリティーズカスタマーソリューション本部

街づくり推進部 平井 貞義 氏

第2回幹事会

令和2年10月20日（火）13：30～／栗原市：エポカ 21 会議室

報告

- ・ ILC の最新動向について
東京大学特任教授 山下 了 氏
- ・ 部会活動と当面必要な調査検討活動について

協議

- (1) 今後の部会の設置について
- (2) 令和3年度負担金について

第3回幹事会

令和2年12月10日（木）14：00～／オンライン

報告

- ・ ILC の最新動向について
東京大学特任教授 山下 了 氏
- ・ 北上市の加入について
- ・ ILC 解説セミナーの開催について

協議

- (1) 令和 3 年度事業計画（案）について
- (2) 令和 3 年度負担金（案）について

第 4 回幹事会

令和 3 年 3 月 17 日（水）14 : 00 ～ / オンライン

協議

- (1) 令和 2 年度事業報告及び決算について
- (2) 令和 3 年度事業計画及び予算について

（５）広報活動

① ILC 誘致実現支援自動販売機」の継続設置

みちのくコカ・コーラボトリング(株)様のご協力を得て、売上の一部が ILC の誘致実現の活動（当協議会の活動等）に寄付される自動販売機を県内 3 か所に継続して設置している。



盛岡市（マリオス 3F）



奥州市（ダイコー壺番館）

② PR 用ポケットティッシュの作成・配布

令和元年度に関係団体と連携して制作した ILC 動画視聴用の QR コードをデザインに入れたポケットティッシュ 5,500 個を岩手県等自治体と合同で作成し、イベント等で配布。



ポケットティッシュデザイン

③ PR 年賀状の作成

岩手県印刷工業組合・盛岡広域振興局・盛岡中央郵便局と協力し、18,000 枚を印刷・販売した。

④ ILC 手拭いの作成について

岩手県 ILC 推進局とスポーツイベントで配る「ILC 手拭い」を作成・配布した。

⑤ ILC のぼりの作成について

岩手県 ILC 推進局と岩手県内市町村等に配る「ILC のぼり」を作成した。

⑥ ILC ボックスティッシュケースの作成について

岩手県 ILC 推進局と岩手県内市町村等に配る「ILC ボックスティッシュケース」を作成した。

⑦ 周知用ポスター、地形ジオラマの展示・貸出

これまでに作成した広報用ツールを活用し、各種イベント等に出展等を実施。今年度は ILC リーフレットを A1 ポスターサイズにしたパネルを作成した。

※展示用パネル、地形ジオラマは岩手 ILC 連携室「オープンラボ」内に展示中



⑧ イメージキャラクター「ILC そばっち」の活用

ILC への親しみやすさや岩手県が候補地であることのイメージの醸成のため、平成 27 年度に作成。当推進協議会会員等関係機関において広報物等に利用されている。

提供数：9 件（令和 2 年 4 月 1 日～3 月 31 日）



(6) 組織強化活動

ア. 会員増強

・法人・団体会員は 10 会員の減（新規加入 2、退会 12）、個人会員 6 会員の減（新規加入 1、退会 7）、全体で 16 会員の減。会員状況については別掲。

・会員への情報発信

○新型コロナウイルス感染症の影響により、ILC 推進活動の動きを対面で共有する機会を持つことが難しくなったことから、会員との情報共有を密にしていいため、新たに会報として「ILC レター」を作成し、会員に郵送した。

イ. 産・学・官・関係機関との連携

■先端加速器科学技術推進協議会（AAA）との連携

①総会

令和 2 年 6 月 30 日（火）／書面決議

議事 2019 年度事業報告・決算、2020 年事業計画・予算、役員の選任について

①臨時総会

令和2年10月1日（木）／於：オンライン開催

報告・2020年上半期部会活動について

・ILCの最新動向について

講演 「東北 ILC 事業推進センターの活動について」

東北 ILC 事業推進センター 代表 鈴木 厚人 氏

「ILC 国際推進チームについて」

ILC 国際推進チーム 議長 中田 達也 氏

②理事会

第35回理事会 令和2年5月21日（木）／書面決議

議事 2020年度通常総会議案の件

事務局長任命の件

第36回理事会 令和2年7月3日（金）／書面決議

議事 代表理事の件

第37回理事会 令和2年8月21日（金）／書面決議

議事 臨時総会開催の件

③事務局会議

令和2年4月27日（月）／於：リモート 猿川事務局長

・理事会提出議案について

令和2年8月31日（月）／於：リモート 猿川事務局長

・臨時総会の件について

令和2年11月9日（月）／於：リモート 猿川事務局長

・ILC 推進連絡会と広報戦略会議の位置づけについて

・プロジェクト部会の新体制について

■東北 ILC 推進協議会との連携

①総 会

令和2年5月20日（水）／書面決議

議事 令和元年度事業報告・決算、令和2年度事業計画・予算、

ILC 誘致に関する決議（案）について

②第1回幹事会

令和2年4月13日（月）／書面決議

議事 令和2年度総会等の議事について（案）

③第2回幹事会

令和3年3月25日（木）／オンライン

議事 令和2年度事業報告及び決算見込みについて

令和3年度事業計画の方向性案、予算案について

■いわてまるごと科学館実行委員会との連携

①第1回実行委員会

令和2年9月10日（木）／於：エスポワールいわて

概要 規約改正、役員選任、事業計画・収支予算（案）等について

■岩手県 ILC 推進局との連携

①連絡会議

- ・毎月1回、相互の活動状況や今後の活動計画等について意見交換を実施。

■鈴木学長との定例連絡会

構成員 鈴木学長、吉岡客員教授、成田教授、東北大：京谷教授、佐貫准教授、岩手県 ILC 推進局、齋藤理事、廣田理事、猿川事務局長

- ・毎週火曜日午前9時からアイーナキャンパス会議室において、ILC の活動状況や東北 ILC 事業推進センターの活動などの情報共有と意見交換を目的に実施。

(7) 諸会議等

■役員会

①第1回役員会：書面決議

令和2年6月10日（水）

- 議事（1）令和元年度事業報告並びに収支決算について
（2）令和2年度事業計画（案）並びに収支予算（案）について
（3）役員改選について

②第2回役員会

令和2年9月24日（木）

- 報告（1）令和2年度上半期活動状況について
（2）令和2年度岩手県の取組み状況について

※終了後、ILC 講演会（WEB）を開催。役員は、ホテルメトロポリタン盛岡会場にてスクリーン映像で視聴した。

■幹事会

①第1回幹事会

令和2年5月28日（木）15:00～16:00／於：盛岡商工会議所

- 議事（1）役員会提出議案について
（2）役員会書面開催日について

■監査会

令和2年5月28日（木）16:00～16:40／於：盛岡商工会議所

令和元年度会計監査について

(8) 会員加入状況（令和3年3月31日現在）

合計 587 会員（法人・団体会員 522 会員、個人会員 65 会員）

※16 会員減：年度当初 603 会員（法人等 532、個人 71）

令和2年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支決算書

自)令和2年 4月 1日

至)令和3年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	10,820,000	11,500,000	△ 680,000	
(1)法人会費	10,540,000	11,200,000	△ 660,000	予算:510会員/560口 → 決算:479会員/527口
(2)個人会費	280,000	300,000	△ 20,000	予算:55会員/60口 → 決算:53会員/56口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	1,492,622	315,144	1,177,478	ILCポケットティッシュ負担金15万、ほかILC関連グッズ負担金109万、寄附金(みちのくコカ・コーラ共生会)20万、決算利息 ほか
4. 繰越金	5,434,856	5,434,856	0	
合 計	18,247,478	17,750,000	182,334	

■支出の部

(単位:円)

項 目	決算額	予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	5,623,210	15,350,000	△ 9,726,790	東北ILC事業推進センター負担金 150万 年賀はがき・うちわ等啓発グッズ代 122万 講演会等開催費用 70万 HP運営管理費 64万 オープンラボ展示用物品代 50万 AAA広報負担金 43万 報告書等印刷費 32万 関係団体会費 10万 …ほか
2. 会議費	121,943	150,000	△ 28,057	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	1,598,574	1,800,000	△ 201,426	
(1)旅費	0	150,000	△ 150,000	推進団体総会等参加費
(2)印刷費	135,653	150,000	△ 14,347	資料コピー代、封筒代ほか
(3)通信運搬費	262,921	300,000	△ 37,079	事業報告書・講演会案内等配送料
(4)事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	87,984	150,000	△ 62,016	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	0	300,000	△ 300,000	
合 計	7,431,711	17,750,000	△ 10,318,289	

次年度繰越

10,815,767

貸借対照表

令和3年3月31日

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	10,815,767	流動負債	0
現金	0		
預金	10,815,767		
未収金	0		
固定資産	0	未処分剰余金	10,815,767
		当期剰余金	10,815,767
合 計	10,815,767	合 計	10,815,767

財 産 目 録

令和3年3月31日

■資産の部

(単位:円)

1. 現金	0
2. 普通預金	10,815,767 (岩手銀行)
3. 未収金	0

資産合計 10,815,767

■負債の部

(単位:円)

負債合計 0

差引正味財産 10,815,767

令和 2 年度会計監査報告書

岩手県国際リニアコライダー推進協議会の令和 2 年度収支決算について監査をいたしましたところ、収入、支出ともに諸帳簿及び関係書類等と適合し、適正かつ正確に処理されていることを確認いたしましたので、ここに報告いたします。

令和 3 年 6 月 14 日

岩手県国際リニアコライダー推進協議会

監事 熊谷 敏 裕



監事 菅原 和 弘



令和３年度事業計画（案）

2020 年 8 月、世界の研究者組織（ICFA）は「ILC 準備研究所」設立のために国際推進チーム（IDT）を立ちあげ、国際的合意形成のもと国際機構「ILC 研究所」による 2026 年の着工、2035 年の運用開始を目指している。

国内においては、高エネルギー物理学研究者会議のもと、ILC 実現のタイムリーな実現に向けた研究者コミュニティを主導する「ILC 推進パネル」を設立し、積極的な活動を展開している。

東北では「東北 ILC 事業推進センター」が 8 月に設立され、IDT への東北の資料の提供や地域が主体となって進める ILC の受入れ環境整備等の具体的な調査・検討を行っている。

こうした国内外の状況を踏まえて、ILC 推進パネル、高エネルギー加速器研究機構（KEK）、先端加速器科学技術推進協議会（AAA）等との連携を一層強化して、オールジャパン体制で ILC 実現に向けて取り組むとともに、岩手県や東北 ILC 事業推進センター等とともに引き続き地元からの情報提供や受け入れ態勢の整備・準備活動に取り組む。

さらに、ILC がもたらす効果は多分野・広範囲にわたるものであり、岩手県で策定した「ILC による地域振興ビジョン」や「地球村創生ビジョン」の提言をもとに、ILC を契機とした新たな地方創生への理解の促進とまちづくり等の推進に努める。

ILC 超党派国会議員連盟や ILC 推進関係団体との連携を強化し、国内外の動向に臨機に対応し、ILC 準備研究所の設立に向けて、日本政府が国際的な議論を推進するよう要望活動を行う。

また、ILC 実現を岩手県から東北、全国に広げる活動を切れ目なく積極的に展開する。

（１）国等への要望活動の強化

■岩手県、東北 ILC 推進協議会等と連携した要望活動

■岩手県国際リニアコライダー推進協議会による要望活動

■政産官学連携による要望活動

■リニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟、自民党 ILC 誘致実現連絡協議会との連携強化

■経済３団体（日本商工会議所、日本経済団体連合会、経済同友会）との連携強化

（２）国内・外への ILC 実現にむけた活動

■国内 PR の強化

ILC の連携推進体制の強化のために研究者、KEK、AAA、岩手県、東北 ILC 推進協議会等で構成される ILC 推進連絡会によるオールジャパンとしての活動に積極的に参画する。

さらに関係団体が一体となり、新聞等メディア等への働きかけや ILC ポータルサイトである AAA:ILC プロジェクトの発信強化並びに推進団体が連携した SNS による情報発信、さらに ILC 刊行物の図書館等の配布等の全国への普及啓発に取り組む。

また、コロナ禍の中、当協議会が主催するオンライン講演会を推進団体と共催し、全国から参加を促すとともに、YouTube チャンネルを活用して HP から全国に講演内容を発信する。

■海外への情報発信強化と海外での活動支援

KEK で 10 月、つくばにて開催予定の国際推進チーム（IDT）主催の国際ワークショップや

海外要人、研究者の視察受入の機会を有効に活用し、海外への情報発信に努める。

当推進協議会 HP 内「THE KITAKAMI TIMES」等を活用して ILC 実現に取り組む情報や北上サイトの魅力などを世界に向けて積極的な情報発信を行う。

■普及啓発活動

国際推進チーム (IDT) の活動や受入れ環境整備を進める東北 ILC 事業推進センターの活動、ILC の科学的意義や最新動向をテーマとした講演会を開催し、県民、国民全体に ILC 計画の理解促進と啓発に取り組む。

小・中高生を対象としたセミナー、岩手県が主催するいわてまるごと科学館等のイベントに関係団体等と連携して出展を行う。

また、50 周年を迎えた KEK 一般公開デーや例年開催されている全国イベントである真空展 2021 等、県外でのイベントにも積極的に参画する。

■岩手県 ILC 連携室オープンラボ等の活用支援

ILC の情報発信拠点、ILC を契機とした産業、人材育成、研究開発の拠点として、平成 30 年 4 月に岩手県先端科学技術研究センター内に開設。関連産業の参入を目指す事業者や学生などを対象に啓発活動を行っており、積極的な活用の支援を行う。

(3) 調査・研究活動

■岩手県、いわて加速器関連産業研究会と連携して、ILC への加速器産業等参入機会の創出やネットワーク構築の支援に取り組む。

■東北 ILC 事業推進センターの活動支援

国際推進チームを設立し、ILC 建設準備段階の計画を策定していく動きを踏まえて、東北 ILC 事業推進センターが受入れ環境整備を進めている。東北施設計画の調査・検討やまちづくり、ILC の技術移転の産業振興等、ILC 受け入れに向けた活動に参画する。

(4) 広報活動

■広報「いわて ILC レター」を作成し、国内外の情報を会員に発信する。

発信コンテンツ例 ・国内外推進イベントの状況

- ・学生や関係者に ILC 誘致活動に関わり得た経験についてのインタビュー
- ・ ILC 国会議員連盟や推進団体の活動

■ ILC 展示コーナーの拡充、啓発グッズ、「ILC そばっち」の活用

(5) 組織強化活動

■ ILC 実現にむけた活動を強化するため、事業活動を通じた当推進協議会の会員増強に努める。

■ AAA、東北 ILC 推進協議会等と産学官連携の強化を図る。

(6) 諸会議等

■役員会・幹事会の開催

令和3年度 岩手県国際リニアコライダー推進協議会 収支予算(案)

自)令和 3年 4月 1日

至)令和 4年 3月31日

■収入の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 会費	10,650,000	11,500,000	△ 850,000	
(1) 法人会費	10,400,000	11,200,000	△ 800,000	472会員/520口
(2) 個人会費	250,000	300,000	△ 50,000	50会員/50口
2. 負担金	500,000	500,000	0	@100,000×経済5団体
3. 雑収入	354,233	315,144	39,089	ILC関連グッズ負担金等
4. 繰越金	10,815,767	5,434,856	5,380,911	
合 計	22,320,000	17,750,000	4,570,000	

■支出の部

(単位:円)

項 目	本年度 予算額	前年度 予算額	対比増減(△)	備 考
1. 事業費	17,450,000	15,350,000	2,100,000	AAA等ILC推進団体共同プロジェクト負担金:300万 講演会等開催費:250万 AAA等ILC推進団体調査事業旅費等:200万 ILC関連展示・グッズ作成等事業費:200万 東北ILC事業推進センター負担金:150万 国際ワークショップ関連費:100万 英語版リーフレット等作成費:50万 HP管理費(日本語・英語):50万 オンライン対応備品費等:40万 県内外イベント関連費:40万 事業報告書等印刷代:40万 海外要人受入支援費:30万 ILCレター等広報費:30万 関係団体諸会費:15万 岩手イベント等事業予備費:250万
2. 会議費	300,000	150,000	150,000	役員会・幹事会開催費
3. 事務費	1,750,000	1,800,000	△ 50,000	
(1) 旅費	50,000	150,000	△ 100,000	関係団体総会・役員会等旅費
(2) 印刷費	200,000	150,000	50,000	資料コピー代、封筒代ほか
(3) 通信運搬費	300,000	300,000	0	広報物・事業報告書等配送料
(4) 事務委託料	1,200,000	1,200,000	0	事務委託料
4. 雑費	150,000	150,000	0	振込手数料、消耗品ほか
5. 予備費	2,670,000	300,000	2,370,000	
合 計	22,320,000	17,750,000	4,570,000	

